

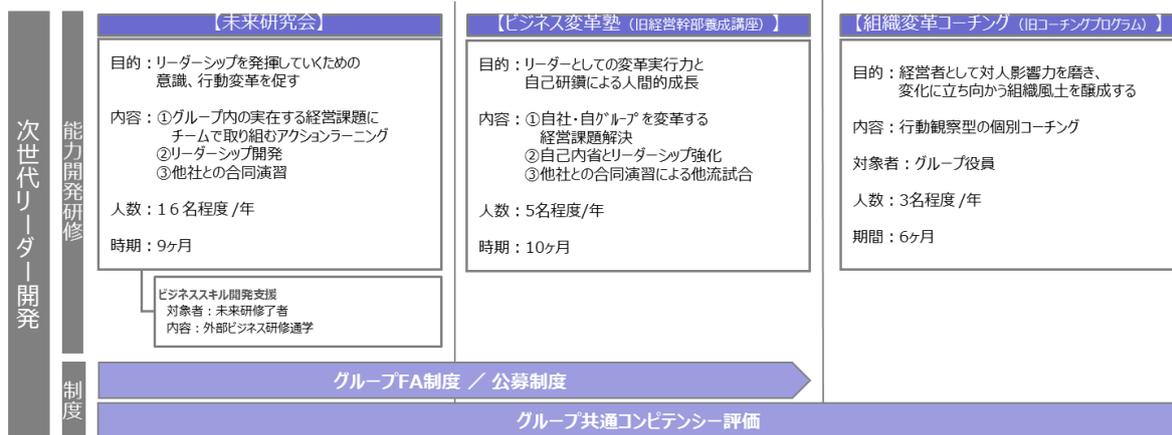
次世代リーダー育成プログラムを刷新 グループ理念を先導し、変化し続けるリーダー人材の創出へ

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス(本社：東京都中央区、社長：鈴木郷史)は、グループ理念を先導し、変化し続ける次世代リーダー創出を目的とした育成体系を、2018年度より刷新しました。既に3月より各研修プログラムがスタートしています。

ポーラ・オルビスグループ 次世代リーダー人材開発体系

多彩なブランドを支える、個性あるリーダーの創出を目的に、2005年よりプログラムを導入しました。現在は、20-30代の若手層、30-40代のミドル層、40代の執行役員層の3つの対象に対し、約1年をかけた能力開発のためのプログラムを実施しています。

2018年度より、ポーラ・オルビスグループの新しい理念にもとづき、一人ひとりが自立した個人としての感受性を発揮し、組織に絶え間なく変化を生み出していくことを目指しプログラムの名称・内容を新たにスタートしました。



主な刷新ポイント

- ミドル層向けは「経営幹部養成講座」から『ビジネス変革塾』へと名称を変更。各ブランドのビジネスを、時代に合わせて変革していくリーダーとしての成長を目的とし、研修内容も変化を組織に巻き起こすための“個人”と“事業”両者の変革を狙いと設定しました。役員層も参加し、事業の変革を議論し組織を挙げて実行していく内容へ変更しています。
- 執行役員層は「コーチングプログラム」から『組織変革コーチング』へと名称を変更。役員個人としての成長以上に、変化に立ち向かう組織風土を幹部として醸成していくことを目的とし、ステークホルダーを巻き込む影響力向上にフォーカスしていきます。
- 昨年度より導入したグループFA制度も継続し、意欲ある人材がグループ内の多様な経験にチャレンジできる機会も引き続き提供していきます。

消費行動の変化が著しい現代において、感受性を開き変化し続ける組織風土を醸成するために、次世代のリーダーを介し、改革を促進することで更なるグループの成長へ寄与していきます。